

一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書XIII

鳥取県東伯郡琴浦町

# 中道東山西山遺跡

鳥取県教育文化財団調査報告書  
101

中道東山西山遺跡

二〇〇五

財団法人  
鳥取県教育文化財団

2005

財団法人 鳥取県教育文化財団  
国土交通省 倉吉河川国道事務所

一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書XIII

鳥取県東伯郡琴浦町

# 中道東山西山遺跡

2005

財団法人 鳥取県教育文化財団  
国土交通省 倉吉河川国道事務所



1 S B 7 完掘状況 (北から)



2 S B 7 鍛冶炉断面 (南西から)



1 S B 6 完掘状況（北から）



2 S B 6 鍛冶炉断面（左：旧炉 右：新炉 東から）



1 SB6-SK51遺物出土状況（西から）



2 SS3鉄滓出土状況（北東から）



1 SK3 炭化材検出状況（北から）



2 鍛冶関連遺物

## 序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところではありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道9号（東伯中山道路・名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してきました。

そのうち、琴浦町にある中道東山西山遺跡では、平安時代の鍛冶工房跡など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。発掘調査終了直前には、現地説明会を開催し多くの方々の御来場をいただいたところですが、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団  
理事長 有田博充

## 序 文

一般国道9号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市（鳥取一島根県境）までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

東伯中山道路は、東伯郡琴浦町から西伯郡中山町にかけての、国道9号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成16年度は、「上伊勢第1遺跡」、「三保第1遺跡」、「久蔵谷遺跡」、「化粧川遺跡」、「八幡遺跡」、「中道東山西山遺跡」、「福留遺跡」、「湯坂遺跡」、「南原千軒遺跡」の9遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「中道東山西山遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いです。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県教育文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成17年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所  
所 長 嘉 本 昭 夫



## 例 言

1. 本報告書は、国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所の委託により、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターが、一般国道9号（東伯中山道路）の改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成16年度に行った中道東山西山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書に記載した遺跡の所在地および調査面積は以下のとおりである。  
なかみちひがしやまにしやま  
中道東山西山遺跡：東伯郡琴浦町大字笠見字中道東山上682ほか 調査面積 13,244m<sup>2</sup>
3. 本報告書で示す標高は、3級基準点H10-3-13、同H10-3-14を基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。なお、X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
4. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「赤碕」「伯耆浦安」、東伯町地形図1/5,000「新農業構造改善事業（東伯地区）No.1」を使用した。
5. 本発掘調査にあたり、鍛冶関連遺構に係る現地指導および製鉄・鍛冶関連遺物の整理指導をたたら研究会委員 穴澤義功氏に、出土石器の石材鑑定を鳥取大学名誉教授 赤木三郎氏に、土師器・須恵器の胎土分析を岡山理科大学自然科学研究所 白石 純氏にそれぞれお願いした。また、白石氏には玉稿を賜った。明記して深謝いたします。
6. 本報告にあたり、調査前・調査後航空写真撮影、調査前地形測量、調査後地形測量、製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的分析、土坑出土炭化材等の<sup>14</sup>C年代測定、樹種同定、土坑および鍛冶炉の被熱温度測定の理化学分析、一部の石器の実測・浄書を業者委託した。
7. 本報告書に掲載した遺物の実測・浄書は、業者委託した分を除き、当財団埋蔵文化財センターおよび東伯調査事務所で行った。
8. 本報告書で使用した遺構・遺物写真は文化財主事・調査員が撮影した。
9. 本報告書の執筆は、高尾浩司、小口英一郎、岩井美枝、福井流星の協議に基づいて分担して行った。文責は目次および各文末に記している。本書の編集は高尾・小口が担当した。
10. 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 現地調査および報告書作成にあたっては、下記の方々・機関に御指導・御協力いただいた。明記して深謝いたします（敬称略・五十音順）。  
安間拓巳、池澤俊幸、大賀靖浩、岡平拓也、角田徳幸、佐伯純也、坂本諭司、白石 聡、寺内隆夫、西尾克己、廣江耕史、松之舎文雄

# 凡 例

1. 遺物の注記における遺跡名には、「中ミチ」を略号として用いた。
2. 本報告書における遺構・遺物の番号は、次のように表した。  
S I：竪穴住居（建物）跡、S B：掘立柱建物跡、S S：段状遺構、S K：土坑、S D：溝状遺構  
P：柱穴等、遺物番号のみ：土器・土製品・焼成（被熱）粘土塊、S：石器、F：鉄製品・鉄滓  
S Iについては規模・構造から住居以外の機能・用途が想定されるものがあり、その場合は本文中で竪穴建物（工楽1998）と表記している。  
工楽善通 1998「コメント 竪穴建物の機能」浅川滋男編『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告 先史日本の住居とその周辺』同成社
3. 本報告書における遺構・遺物の図面は、下記の縮尺で掲載した。  
遺構図 竪穴住居（建物）跡・掘立柱建物跡・段状遺構：1/60、土坑・溝状遺構：1/20・1/40、床面・土坑内遺物等出土状況：1/15、1/20  
遺物実測図 土器・土製品：1/4、炉壁・焼成粘土塊：1/2、石器：1/1・1/3・2/3・1/4・1/6、鉄製品・鉄滓：1/2
4. 遺構図・遺物実測図に用いたトーンおよび記号は以下のものを表す。  
■：地山、■：貼床、■：焼土、■：炭層、●（土器・土製品）・■（石器）・△（鉄製品・鉄滓）・★（炭化物・炭化種子）：遺物出土ポイント  
■：擦り面・砥面、■：赤彩、■：鉄滓付着範囲
5. 遺物実測図において、須恵器は断面黒塗り、鉄器・鉄滓は断面トーン、それ以外の土器・土製品・石器は断面白抜きで表現した。
6. 製鉄・鍛冶関連遺物に関しては、強力磁石（TAJIMA PUP-M）と特殊金属探知機による鉄塊の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を行った。資料の分類、抽出ならびに資料観察表の作成は、穴澤義功氏に依頼し、御指導賜った。
7. 遺物観察表は出土遺構・層位ごとに掲載した。表については以下のとおりとする。  
（1）法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。  
（2）製鉄・鍛冶関連遺物の法量は最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。なお、本文・観察表の記述における名称についてはp136の凡例図を参照のこと。磁着度は鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応を、6mmを1単位として数字で表現したもので、数値が大きいほど磁着度が強い。メタル度は小型金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、基準感度は次のとおりである。  
H（○）：Hは最高感度でごく小さな金属鉄が残留することを示す。  
M（◎）：Mは中間感度でHの倍以上の大きさの金属鉄が残留することを示す。  
L（●）：Lは低感度でMの倍以上の金属鉄が残留することを示す。  
特L（☆）：特Lは低感度でLの倍以上の大きさの金属鉄が残留することを示す。
8. 発掘調査時における遺構名・番号と報告書記載時の遺構名・番号を、一部について変更したものがあ。新旧の対照表は第3章に示した。
9. 本報告書における遺構・遺物の時期決定には下記文献を参照した。  
清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』正岡睦夫・松本岩雄編 木耳社 P.355～412  
巽淳一郎 1979「Ⅲ-2 土器類」『伯耆国跡発掘調査概報（第5・6次）』倉吉市教育委員会 P.13～26

# 目 次

巻頭図版

序

序文

例言

凡例

## 第1章 調査の経緯

- 第1節 調査に至る経緯…………… (牧本・高尾) 1
- 第2節 調査の経過と方法…………… (高尾) 2
  - (1) 調査区の名称と調査方法
  - (2) 調査の経過
- 第3節 調査体制…………… (高尾) 4

## 第2章 遺跡の立地と環境

- 第1節 地理的環境…………… (牧本・小口) 5
- 第2節 歴史的環境…………… (牧本) 6

## 第3章 遺跡の概要

- 第1節 調査の方法…………… (高尾) 9
- 第2節 調査地内の土層堆積…………… (小口) 10
- 第3節 遺構の概要…………… (高尾) 15

## 第4章 調査の成果と記録

- 第1節 竪穴住居(建物)跡…………… (高尾・小口・岩井・福井) 16
- 第2節 掘立柱建物跡…………… (小口・岩井・福井) 44
- 第3節 土坑…………… (高尾・小口・岩井・福井) 51
- 第4節 鍛冶関連遺構…………… (小口・福井) 85
- 第5節 製鉄・鍛冶関連遺物…………… (小口) 97
- 第6節 その他…………… (高尾・小口・岩井・福井) 119
- 第7節 包含層出土遺物…………… (高尾・小口) 127
- 第8節 製鉄・鍛冶関連遺物(分析資料)の考古学的観察…………… (小口) 135

## 第5章 自然科学的考察

- 第1節 中道東山西山遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査  
株式会社 九州テクノリサーチ・TACセンター 149
- 第2節 炭化材樹種同定  
株式会社 古環境研究所 174
- 第3節 中道東山西山遺跡における焼土の分析  
パリノ・サーヴェイ株式会社 177
- 第4節 中道東山西山遺跡出土炭化材等放射性炭素年代測定  
株式会社 加速器分析研究所 190
- 第5節 中道東山西山遺跡出土土器の胎土分析  
岡山理科大学自然科学研究所 白石 純 191

## 第6章 考古学的考察

第1節	中道東山西山遺跡における鉄生産の様相……………	(小口)	196
第2節	平安時代の遺構と遺物について……………	(福井)	201
第3節	弥生時代後期の赤彩土器について……………	(岩井)	204
第4節	中道東山西山遺跡における弥生時代集落の構造……………	(高尾)	208

第7章	総括……………	(高尾・小口・岩井・福井)	212
-----	---------	---------------	-----

### 写真図版

#### 抄録

## 挿図目次

第1図	調査地位置図	1	第49図	S K 28	52
第2図	琴浦町位置図	5	第50図	S K 62	52
第3図	周辺遺跡分布図	8	第51図	S K 79	52
第4図	調査前地形測量図	9	第52図	S K 80	52
第5図	西山基本層序	10	第53図	S K 17	53
第6図	東山～谷部土層断面図(1)	11	第54図	S K 49	54
第7図	東山～谷部土層断面図(2)	12	第55図	S K 83	54
第8図	土層断面図配置模式図	12	第56図	S K 83 出土遺物	54
第9図	中道東山西山遺跡遺構配置図	13～14	第57図	S K 2	54
第10図	S I 1	16	第58図	S K 4	54
第11図	S I 1 出土遺物	17	第59図	S K 5	54
第12図	S I 2	19	第60図	S K 7	55
第13図	S I 2 出土遺物(1)	20	第61図	S K 9	55
第14図	S I 2 出土遺物(2)	21	第62図	S K 10	56
第15図	S I 2 出土遺物(3)	22	第63図	S K 11	56
第16図	S I 3	23	第64図	S K 12	56
第17図	S I 3 出土遺物(1)	24	第65図	S K 13	56
第18図	S I 3 出土遺物(2)	25	第66図	S K 14	57
第19図	S I 4	26	第67図	S K 15	57
第20図	S I 5	27	第68図	S K 16	58
第21図	S I 4 出土遺物(1)	28	第69図	S K 18	58
第22図	S I 4 出土遺物(2)	28	第70図	S K 19	58
第23図	S I 6 出土遺物(1)	29	第71図	S K 20	58
第24図	S I 6 (1)	30	第72図	S K 21	59
第25図	S I 6 (2)	31	第73図	S K 23	59
第26図	S I 6 出土遺物(2)	32	第74図	S K 24	59
第27図	S I 7	33	第75図	S K 25	59
第28図	S I 7 出土遺物	34	第76図	S K 27	59
第29図	S I 8 (1)	36	第77図	S K 29	59
第30図	S I 8 (2)	37	第78図	S K 30	59
第31図	S I 8 出土遺物(1)	37	第79図	S K 34	60
第32図	S I 8 出土遺物(2)	38	第80図	S K 35	60
第33図	S I 9	39	第81図	S K 36	60
第34図	S I 9 出土遺物	40	第82図	S K 37	61
第35図	S I 10	42	第83図	S K 38	61
第36図	S I 10 出土遺物	43	第84図	S K 39	61
第37図	S B 1	44	第85図	S K 41	61
第38図	S B 1 出土遺物	44	第86図	S K 42	61
第39図	S B 2	45	第87図	S K 44	62
第40図	S B 3 出土遺物	45	第88図	S K 45	62
第41図	S B 3	46	第89図	S K 46	62
第42図	S B 4	47	第90図	S K 47	62
第43図	S B 4 出土遺物	47	第91図	S K 47 出土遺物	62
第44図	S B 5 出土遺物(1)	48	第92図	S K 48	63
第45図	S B 5 (1)	49	第93図	S K 50	63
第46図	S B 5 (2)	50	第94図	S K 53	63
第47図	S B 5 出土遺物(2)	50	第95図	S K 53 出土遺物	63
第48図	S K 26	52	第96図	S K 54	63

第97図	S K54出土遺物	63	第164図	中道東山西山遺跡鉄関連遺物分布図	94
第98図	S K55出土遺物	64	第165図	中道東山西山遺跡鉄関連遺物分類模式図	97
第99図	S K55	64	第166図	中道東山西山遺跡鉄関連遺物構成図(1)	98
第100図	S K56出土遺物	65	第167図	中道東山西山遺跡鉄関連遺物構成図(2)	99
第101図	S K56	65	第168図	中道東山西山遺跡鉄関連遺物構成図(3)	100
第102図	S K57	65	第169図	S B 6-S K51出土鍛冶関連遺物	101
第103図	S K59	66	第170図	S B 7-S K52出土鍛冶関連遺物	102
第104図	S K60	66	第171図	製鉄・鍛冶関連遺物(1)	103
第105図	S K61	66	第172図	製鉄・鍛冶関連遺物(2)	104
第106図	S K64	66	第173図	製鉄・鍛冶関連遺物(3)	105
第107図	S K65	66	第174図	製鉄・鍛冶関連遺物(4)	106
第108図	S K65 出土遺物	66	第175図	製鉄・鍛冶関連遺物(5)	107
第109図	S K66	67	第176図	製鉄・鍛冶関連遺物(6)	108
第110図	S K66 出土遺物	67	第177図	製鉄・鍛冶関連遺物(7)	109
第111図	S K68	67	第178図	製鉄・鍛冶関連遺物(8)	110
第112図	S K69	67	第179図	製鉄・鍛冶関連遺物(9)	111
第113図	S K71	67	第180図	製鉄・鍛冶関連遺物(10)	112
第114図	S K72	68	第181図	製鉄・鍛冶関連遺物(11)	113
第115図	S K73	68	第182図	S S 1	119
第116図	S K74	69	第183図	S S 1 出土遺物(1)	119
第117図	S K75	69	第184図	S S 1 出土遺物(2)	120
第118図	S K76	69	第185図	S S 2	120
第119図	S K76 出土遺物	69	第186図	S S 2 出土遺物	120
第120図	S K77	70	第187図	S D 1	121
第121図	S K77出土遺物	70	第188図	S D 1 出土遺物	121
第122図	S K78	70	第189図	焼土1	121
第123図	S K81・82	71	第190図	焼土2	121
第124図	S K81・82 出土遺物	71	第191図	焼土3	121
第125図	S K84	72	第192図	焼土4	122
第126図	S K84 出土遺物	72	第193図	被熱粘土塊1	122
第127図	S K85	73	第194図	被熱粘土塊2	123
第128図	S K85 出土遺物	73	第195図	P97・190・235・237・387・422・493・733・890・892・962・980	124
第129図	S K86	73	第196図	ピット内出土遺物(1)	125
第130図	S K86 出土遺物	73	第197図	ピット内出土遺物(2)	126
第131図	S K88	73	第198図	包含層出土遺物(1)	127
第132図	S K89	73	第199図	包含層出土遺物(2)	128
第133図	S K90	73	第200図	包含層出土遺物(3)	130
第134図	S K 1	74	第201図	包含層出土遺物(4)	131
第135図	S K 3	75	第202図	包含層出土遺物(5)	132
第136図	S K 6	76	第203図	S K 3 焼土および地山試料のX線回折図	182
第137図	S K 8	77	第204図	S K 6 焼土および地山試料のX線回折図	183
第138図	S K22	78	第205図	S K63焼土および地山試料のX線回折図	184
第139図	S K31	78	第206図	S K40焼土および地山試料のX線回折図	185
第140図	S K32	79	第207図	S B 7 焼土および地山試料のX線回折図	186
第141図	S K33	79	第208図	遺跡内出土土器の胎土比較(K - Ca 散布図)	193
第142図	S K40	80	第209図	遺跡内出土土器の胎土比較(Rb - Sr 散布図)	193
第143図	S K43	81	第210図	古市宮ノ谷山出土土師器との胎土比較(K - Ca 散布図)	194
第144図	S K58	82	第211図	古市宮ノ谷山出土土師器との胎土比較(Rb - Sr 散布図)	194
第145図	S K58 出土遺物	82	第212図	生産地(窯跡)との胎土比較(K - Ca 散布図)	195
第146図	S K63	83	第213図	生産地(窯跡)との胎土比較(Rb - Sr 散布図)	195
第147図	S K67	83	第214図	鳥取県における古代製鉄・鍛冶遺構	199
第148図	S K87	83			
第149図	鍛冶関連遺構配置図	85			
第150図	S B 6	86			
第151図	S B 6-P 10出土遺物	86			
第152図	S B 6-鍛冶炉	87			
第153図	S B 6-S K51、P 11・12	87			
第154図	S B 6-S K51遺物出土状況	88			
第155図	S B 7	89			
第156図	S B 7-鍛冶炉	89			
第157図	S B 7-S K52	90			
第158図	S K70	90			
第159図	S B 7-P 9~12	91			
第160図	S B 6・7 鍛冶炉周辺粒状滓・鍛造剥片分布図	92			
第161図	S S 3	93			
第162図	S S 3 出土遺物(1)	93			
第163図	S S 3 出土遺物(2)	93			

第215図	遺構配置図および周辺遺跡図	202	第219図	中道東山西山遺跡周辺の	210
第216図	赤彩土器出土遺跡	206		弥生～古墳時代集落跡	
第217図	赤彩パターン	206	第220図	周辺遺跡における弥生時代	211
第218図	後期後葉～終末期前半の集落構造	209		後期後葉の集落構造	

## 挿表目次

表1	新旧遺構名対照表	15	表49	S B 6ピット計測表	86
表2	S I 1ピット計測表	16	表50	S B 6-P 10出土土器観察表	87
表3	S I 1出土土器観察表	17	表51	S B 7ピット計測表	89
表4	S I 1出土土器観察表	17	表52	S S 3出土土器観察表	93
表5	S I 2ピット計測表	19	表53	S S 3出土土器観察表	93
表6	S I 2出土土器観察表	22	表54	S B 6鍛冶炉周辺粒状滓・鍛造	95
表7	S I 2出土土器観察表	22		剥片出土地点別重量一覧表	
表8	S I 2出土土器観察表	22	表55	S B 7鍛冶炉周辺粒状滓・鍛造	95
表9	S I 3ピット計測表	23		剥片出土地点別重量一覧表	
表10	S I 3出土土器観察表	24	表56	中道東山西山遺跡鉄滓	96
表11	S I 3出土土器観察表	24		出土地区別重量表	
表12	S I 4ピット計測表	26	表57	中道東山西山遺跡製鉄・鍛冶関連	115
表13	S I 5ピット計測表	27		遺物一覧表(1)	
表14	S I 4出土土器観察表	28	表58	中道東山西山遺跡製鉄・鍛冶関連	116
表15	S I 4出土土器観察表	28		遺物一覧表(2)	
表16	S I 6出土土器観察表	29	表59	中道東山西山遺跡製鉄・鍛冶関連	117
表17	S I 6ピット計測表	31		遺物一覧表(3)	
表18	S I 6出土土器観察表	32	表60	中道東山西山遺跡製鉄・鍛冶関連	118
表19	S I 7ピット計測表	33		遺物一覧表(4)	
表20	S I 7出土土器観察表	34	表61	中道東山西山遺跡製鉄・鍛冶関連	118
表21	S I 8ピット計測表	35		遺物組成一覧表	
表22	S I 8出土土器観察表	37	表62	S S 1出土土器観察表	119
表23	S I 8出土土器観察表	37	表63	S S 1出土土器観察表	120
表24	S I 8出土土器観察表	38	表64	S S 2出土土器観察表	120
表25	S I 9ピット計測表	39	表65	S D 1出土土器観察表	122
表26	S I 9出土土器観察表	41	表66	ピット出土土器観察表	125
表27	S I 9出土土器観察表	41	表67	ピット出土土器観察表	126
表28	S I 9出土土器観察表	41	表68	包含層出土土器観察表	133
表29	S I 10ピット計測表	42	表69	包含層出土土器観察表(1)	133
表30	S I 10出土土器観察表	43	表70	包含層出土土器観察表(2)	134
表31	S I 10出土土器観察表	43	表71	中道東山西山遺跡鉄関連遺物	136
表32	S B 1ピット計測表	44		分析資料一覧表	
表33	S B 1出土土器観察表	44	表72	中道東山西山遺跡遺構一覧表	148
表34	S B 2ピット計測表	45	表73	供試材の履歴と調査項目	161
表35	S B 3出土土器観察表	45	表74	供試材の組成	161
表36	S B 3ピット計測表	46	表75	出土遺物の調査結果のまとめ	162
表37	S B 4出土土器観察表	47	表76	中道東山西山遺跡における	175
表38	S B 4ピット計測表	48		樹種同定結果	
表39	S B 5ピット計測表	48	表77	薄片観察結果	181
表40	S B 5出土土器観察表	50	表78	放射性炭素年代測定結果	190
表41	S B 5出土土器観察表	50	表79	暦年代補正用年代値	190
表42	S K 83出土土器観察表	54	表80	中道東山西山遺跡出土土器の	192
表43	S K 47・53～56出土土器	64		胎土分析値一覧表	
	観察表		表81	中道東山西山遺跡主要要素一覧表	198
表44	S K 65・66出土土器観察表	67	表82	鳥取県における奈良～平安時代の	199
表45	S K 76・77出土土器観察表	70		製鉄・鍛冶関連遺構	
表46	S K 81・82出土土器観察表	71	表83	周辺における調査事例	202
表47	S K 84～86出土土器観察表	74	表84	器種別赤彩表	207
表48	S K 58出土土器観察表	82			

## 文中写真

写真1	現地説明会	3	写真7	調査後遠景(北東から)	84
写真2	作業を終えて	3	写真8	鍛冶炉周辺土壌サンプル	85
写真3	南壁土層断面	12	写真9	鉄関連遺物分類作業	96
写真4	西山基本層序	15	写真10	被熱粘土塊2検出状況	123
写真5	上段: S K 3土層断面	75	写真11	S I 6検出作業風景	134
	下段: S K 3底面炭化材検出状況	75	写真12	P 493土器152出土状況	134
写真6	S K 31炭化材検出状況	78	写真13	粒状滓・鍛造剥片の顕微鏡組織	163

写真14	鍛造剥片・含鉄鉄滓の顕微鏡組織	164			下段：鉄塊系遺物（製錬系）	
写真15	含鉄鉄滓の顕微鏡組織	165			(NMH-11)のマクロ組織(×10)	
写真16	流動滓・含鉄鉄滓の顕微鏡組織	166	写真22	腕形鍛冶滓(含鉄)(NMH-10)	172	
写真17	含鉄鉄滓の顕微鏡組織	167		のマクロ組織		
写真18	腕形鍛冶滓の顕微鏡組織	168		上段：(×5) 下段：(×10)		
写真19	鉄塊系遺物の顕微鏡組織	169	写真23	EPMA調査結果	173	
写真20	上段：含鉄鉄滓(製錬系)	170		反射電子像(COMP)及び		
	(NMH-3)のマクロ組織(×5)			定量分析値(NMH-4：含鉄鉄滓)		
	下段：含鉄鉄滓(製錬系)		写真24	中道東山西山遺跡の炭化材	176	
	(NMH-4)のマクロ組織(×5)		写真25	薄片(1)	187	
写真21	上段：含鉄鉄滓(製錬系)	171	写真26	薄片(2)	188	
	(NMH-8)のマクロ組織(×5)		写真27	薄片(3)	189	

## 写真図版目次

巻頭PL. 1	1	SB7完掘状況(北から)			(北から)
	2	SB7鍛冶炉断面(南西から)			4
巻頭PL. 2	1	SB6完掘状況(北から)	PL. 9	1	SI8完掘状況(北から)
	2	SB6鍛冶炉断面		2	SI9完掘状況(北から)
		(左：旧炉 右：新炉 東から)		3	SI9土層断面(北東から)
巻頭PL. 3	1	SB6-SK51遺物出土状況		3	SI9土器70出土状況(東から)
		(西から)		4	SI9床面直上焼土塊出土状況
	2	SS3鉄滓出土状況(北東から)	PL. 10	1	SI9床面直上焼土塊出土状況
巻頭PL. 4	1	SK3炭化材検出状況(北から)		2	(西から)
	2	鍛冶関連遺物		3	SI10完掘状況(北から)
				2	SI10土層断面(南から)
PL. 1	1	調査地遠景(調査前・南東から)		3	SI10中央ピット土層断面
	2	調査地近景(調査後・西から)			(北東から)
PL. 2	1	SI1完掘状況(南から)	PL. 11	4	SI10中央ピット完掘状況
	2	SI1土層断面(西から)			(北西から)
	3	SI1遺物出土状況(南から)	PL. 12	1	調査地南側建物群全景(北から)
	4	SI1中央ピット土層断面		2	SB1・2完掘状況(北から)
		(西から)	PL. 13		SB3・4完掘状況(北から)
	5	SI1中央ピット完掘状況		1	SB5完掘状況(北から)
		(東から)		2	SB5 P3土層断面(西から)
PL. 3	1	SI2完掘状況(北から)		3	SB5 P5底部礫出土状況
	2	SI2土層断面(北西から)			(南から)
	3	SI2遺物出土状況(北から)	PL. 14	4	SB5 P11土器84・92
	4	SI2土器14出土状況(南から)			出土状況(西から)
	5	SI2土器2・3出土状況		1	SB6鍛冶炉検出状況(西から)
		(南東から)		2	SB6鍛冶炉粉炭部検出状況
PL. 4	1	SI3、SK66完掘状況(北から)			(東から)
	2	SI3遺物出土状況(北から)		3	SB6-SK51土層断面
	3	SI3土器26出土状況(東から)			(西から)
	4	SI3土器23出土状況		4	SK51(P1)内鉄滓集中出土
		(南東から)			状況(西から)
PL. 5	1	SI4・5完掘状況(南から)		5	SB7鍛冶炉・SK52検出状況
	2	SI4・5土層断面(南西から)			(南東から)
	3	SI4 P5土層断面(東から)		6	SK52鉄関連遺物出土状況
	4	SI4土器32出土状況(南から)			(東から)
	5	SI5 P3土層断面(南から)	PL. 15	7	SB7鍛冶炉粉炭部検出状況
PL. 6	1	SI6遺物出土状況(南西から)			(南から)
	2	SI6中央ピット土層断面		1	SB7検出状況(北から)
		(西から)		2	SB7鍛冶炉・SK52完掘状況
	3	SI6土器51出土状況	PL. 16		(南から)
		(南西から)		1	SS1完掘状況(南東から)
	4	SI6a P23土層断面(東から)	PL. 17	2	SS2完掘状況(南から)
	5	SI6完掘状況(北から)		1	SS3鉄滓・礫出土状況
PL. 7	1	SI7土層断面(西から)			(近接・北東から)
	2	SI7中央ピット土層断面	PL. 18	2	SS3完掘状況(北東から)
		(南東から)		1	SK7完掘状況(東から)
	3	SI7床面直上炭化材出土状況		2	SK14完掘状況(東から)
		(西から)		3	SK17完掘状況(西から)
	4	SI7完掘状況(西から)		4	SK26完掘状況(西から)
PL. 8	1	SI8土層断面(西から)		5	SK28土層断面(東から)
	2	SI8壁溝切り合い状況(南から)		6	SK34下部焼土塊出土状況
	3	SI8鉄製品F2出土状況			(北東から)
				7	SK34完掘状況(北から)
				8	SK47完掘状況(北から)

PL. 19	1 SK53遺物出土状況 (南西から)	3 SI 6 出土土器 (3)
	2 SK55完掘状況 (東から)	4 SI 7 出土土器
	3 SK56完掘状況 (北から)	5 SI 9 出土土器
	4 SK62完掘状況 (南から)	PL. 34 SI 7~10出土土器
	5 SK64完掘状況 (南西から)	PL. 35 1 SB 1・3~6 出土土器
	6 SK65完掘状況 (北から)	2 SB 5、SS 2・3、SD 1、
	7 SK66遺物出土状況 (北から)	P 190・454・493・892出土土器
PL. 20	1 SK70遺物出土状況 (北から)	PL. 36 1 SB 5 出土土器 (1)
	2 SK76完掘状況 (北から)	2 SB 5 出土土器 (2)
	3 SK78被熱粘土塊出土状況	3 SS 2 出土土器
	(南から)	4 SK55出土土器
	4 SK78完掘状況 (東から)	5 SK76出土土器
	5 SK80完掘状況 (北から)	6 SK81出土土器
	6 SK83完掘状況 (南から)	7 SK84出土土器
	7 SK84遺物出土状況 (東から)	8 P 237出土土器
	8 SK82土器116出土状況	PL. 37 SI 3、SK47・53~56・58・
	(東から)	65・77、ピット出土土器
PL. 21	1 SK81・82完掘状況 (北東から)	PL. 38 1 SK81~84・86出土土器
	2 SK88・SD 1 完掘状況 (西から)	2 包含層出土土器 (1)
	3 P 235鉄滓出土状況 (南から)	3 包含層出土土器 (2)
	4 SB 6 周辺P 890鉄滓出土状況	4 包含層出土土器 (3)
	(北から)	5 包含層出土土器 (4)
PL. 22	1 SK 3 底面付近炭化材出土状況	6 包含層出土土器 (5)
	(北から)	包含層出土土器 (6)
	2 SK 1 完掘状況 (南から)	PL. 39 1 SS 3・包含層出土土器
	3 SK 3 完掘状況 (東から)	PL. 40 2 包含層出土土器 (7)
	4 SK 6 土層断面 (南から)	3 石錘
	5 SK 6 完掘状況 (南から)	4 石鏟・剥片
PL. 23	1 SK 8 完掘状況 (東から)	5 石斧
	2 SK22炭層検出状況 (東から)	PL. 41 1 SI 1・4・6・8・9、
	3 SK22完掘状況 (東から)	SS 1 出土土器
	4 SK31完掘状況 (北東から)	2 SI 2 出土土器 (1)
	5 SK31炭化材検出状況	3 SI 2 出土土器 (2)
	(南西から)	4 SI 1・3・10出土土器
PL. 24	1 SK32・33炭層検出状況	5 包含層出土土器
	(南西から)	PL. 42 1 鉄床石S50鉄滓附着部拡大
	2 SK33土層断面 (南から)	2 鉄床石S51鉄滓附着部拡大
	3 SK33完掘状況 (東から)	PL. 43 1 石製鍛冶具
	4 SK32完掘状況 (南西から)	2 鉄滓附着鉄床石剥片
	5 SK63完掘状況 (北西から)	3 被熱粘土塊
PL. 25	1 SK40焼土面検出状況 (西から)	4 鍛造剥片
	2 SK40完掘状況 (西から)	鉄滓 (1)
	3 SK43炭化物出土状況 (西から)	PL. 45 鉄滓 (2)
	4 SK43焼土面検出状況 (北から)	PL. 46 1 鉄滓 (3)
	5 SK58炭層・被熱部検出状況	2 鉄製品
	(北西から)	PL. 47 1 鉄滓X線写真 (1)
PL. 26	1 SK67土層断面 (北西から)	2 鉄滓X線写真 (2)
	2 SK87炭層検出状況 (北から)	PL. 48 1 鉄滓X線写真 (3)
	3 焼土2 検出状況 (南東から)	2 鉄滓X線写真 (4)
	4 谷部被熱粘土塊出土状況(南から)	PL. 49 1 鉄滓X線写真 (5)
	5 東山北側谷周辺遺構群完掘状況	2 鉄製品X線写真
	(北東から)	PL. 50 1 鉄滓 (4) (冶金分析資料)
PL. 27	1 谷部土層堆積状況 (北から)	2 鉄滓X線写真 (6)
	2 谷部第1 遺構面完掘状況(東から)	(冶金分析資料)
PL. 28	1 SI 1・2、SS 1 出土土器	
	2 SI 2 出土土器 (1)	
PL. 29	SI 2 出土土器 (2)	
PL. 30	SI 2 出土土器 (3)	
PL. 31	1 SI 2 出土土器 (4)	
	2 SI 3 出土土器 (1)	
	3 SI 3 出土土器 (2)	
	4 SI 3 出土土器 (3)	
	5 SI 3 出土土器 (4)	
	6 SI 4 出土土器	
PL. 32	1 SI 3 出土土器 (5)	
	2 SI 3・4 出土土器	
PL. 33	1 SI 6 出土土器 (1)	
	2 SI 6 出土土器 (2)	



# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

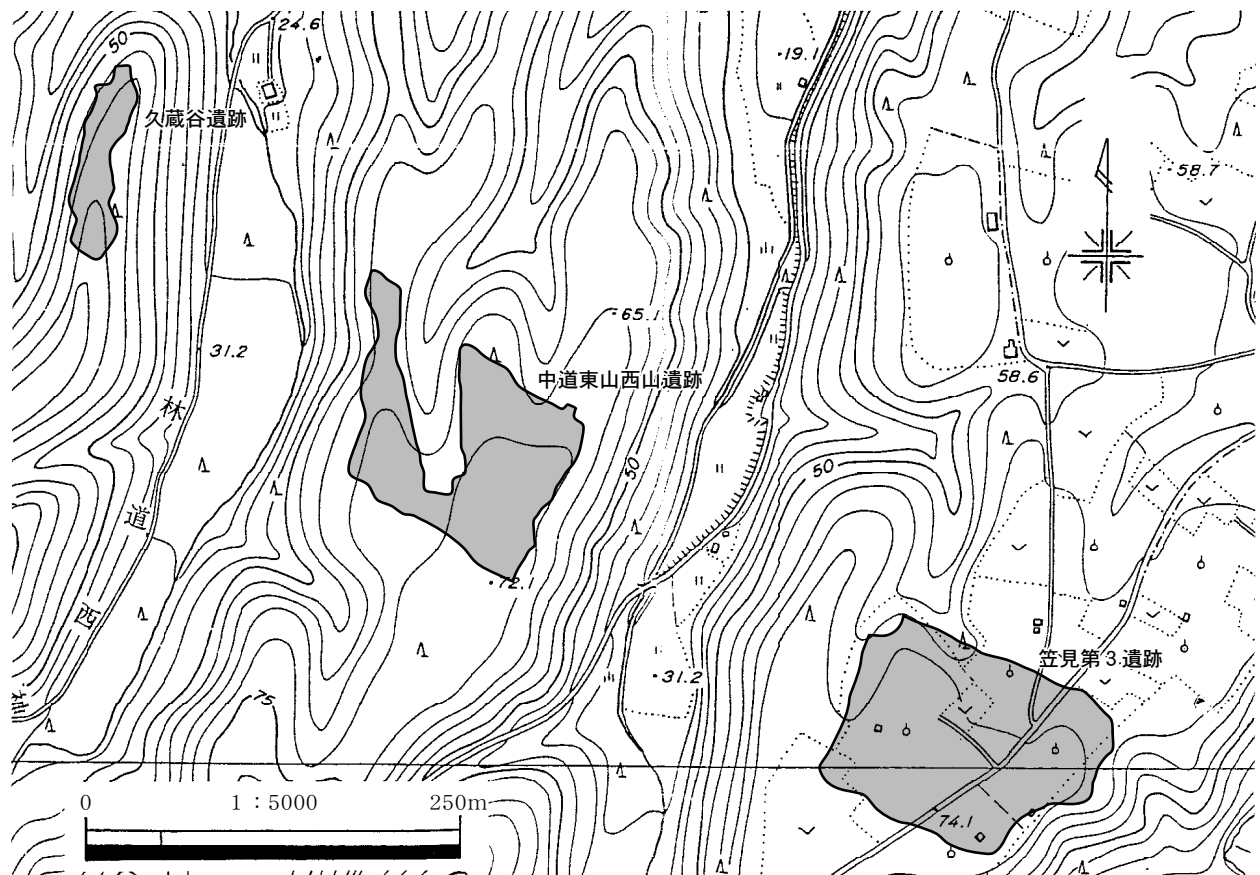
本発掘調査は、一般国道9号東伯中山道路の改築に伴い、東伯郡<sup>ことら</sup>琴浦町笠見地内の工事予定地に存在する埋蔵文化財包蔵地である中道東山西山遺跡の記録保存を目的としたものである。

当該地は、旧東伯郡東伯町に所在するが、平成16年9月1日をもって西隣の旧赤碕町と合併し、新町名である琴浦町となった。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和および将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県中部地域では、東伯中山道路、北条道路、青谷羽合道路が自動車専用の高規格道路として計画・施工されている。

東伯中山道路の計画地内のうち、旧東伯町地内では中尾第1遺跡、上伊勢第1遺跡、三保第1遺跡、井岡地頭遺跡、井岡地中ソネ遺跡、三林遺跡、笠見第3遺跡、中道東山西山遺跡、久蔵谷遺跡、久蔵峰北遺跡、蝮谷遺跡、岩本遺跡、八橋第8・9遺跡の多数の遺跡があり、建設に先立ち計画地内の遺跡及び遺構の広がりを確認する必要性が生じた。このため、東伯町教育委員会が平成11年度から15年度にかけて、国庫補助事業として断続的に試掘調査を行った。当該地の試掘調査は、平成15年度に行われた。

この結果を受け、国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所は、鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を行った上、鳥取県教育委員会事務局教育長の指示により財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のための事前調査を委託した。これにより、



第1図 調査地位置図

当財団が文化財保護法第57条に基づく発掘調査届を提出し、平成16年度に当財団埋蔵文化財センターが発掘調査を担当することとなった。調査面積は、13,244㎡である。 (牧本・高尾)

## 第2節 調査の経過と方法

### (1) 調査区の名称と調査方法

調査地には中心部を南北方向に縦走する谷を挟んで東西二つの尾根が存在し、調査前は尾根ごとに「中道東山遺跡」「中道西山遺跡」と名称が付されて別個の遺跡と捉えられていた。しかし、試掘調査の結果により、東西両尾根に展開する一連の遺跡として、遺物包含層の広がりや予想される谷頭部分を含めた調査地が設定された。そのため、調査地の全体形は凹字状を呈する。調査にあたっては、地形的な特徴および旧遺跡名から東側尾根部を「東山」、西側尾根部を「西山」、わずかに調査対象となった谷頭部分を「谷部」と呼称し、調査を進めた。

表土剥ぎ終了後、調査地内には世界測地系に準拠した公共座標第V系に基づく10m間隔の方眼杭を設置した。東西(X)軸には北から順にアルファベットA~Wを、南北(Y)軸には東から順に算用数字1~18を振り、杭名は交差する軸線のアルファベットと数字を組み合わせたもの(「S8杭」など)とした。この方眼杭によって10m区画のグリッドを設定し、東西南北軸交点の北東側杭の名称をとってグリッド名とした。

検出した遺構・遺物の記録には、平板及び光波トランシットを用いた。出土遺物のうち、時期判断が可能なものについては出土位置を記録し、それ以外は遺構もしくはグリッドごと一括して取上げた。写真撮影には6×7判と35mm判を併用した。

### (2) 調査の経過

調査に先立ち、基準点測量・調査前地形測量および方眼測量を4月5日から5月14日にかけて業者委託により行った。調査前地形測量終了後、4月12日から重機による表土剥ぎを開始した。調査地内外の安全対策として、調査対象外となった谷部へ集積した大量の排土が雨水等を誘因として土砂災害を起こさないように成形・転圧する作業と、調査地への進入路となる急勾配のパイロット道路の法面等を養生する作業を表土剥ぎと併行して行い、これらの作業にかなりの時間を要することとなった。

表土を剥ぎ終えた部分については、4月20日から人力による遺構検出作業を開始した。調査は、表土剥ぎの状況から遺構密度が希薄であると想定された西山から着手し、進捗状況に合わせて東山および谷部に移行する計画を立てた。特に、東山南側の尾根傾斜変換点から谷部にかけての範囲では多数の鉄滓や焼土面が散見されたため、当初より鍛冶関連遺構の存在が予想された。

西山は、遺物包含層である暗褐色土が傾斜変換点から斜面部にかけてわずかに遺存するのみで、ほぼ全域にわたって表土直下がソフトローム層となり、その上面で遺構検出を行った。遺構検出作業は北端から着手し、間もなくSK1・3等を検出した。SK1は底面が被熱しており、またSK3は上面で多量の炭化材が確認でき、規模や埋土の状況も勘案すればどちらも製炭土坑である可能性が高いとの認識に至った。遺構検出作業を進める過程で、基盤層であるソフトロームに酷似した埋土をもつ遺構が複数確認されたため、グリッドラインに沿ったサブトレンチを設定し、土層断面と合わせて遺構の確認に努めた。西山では、尾根北側平坦面および南~南東側の傾斜変換点を中心に竪穴住居(建物)跡1棟、掘立柱建物跡4棟、鍛冶関連遺物が出土したSS3を含む段状遺構3基、土坑30基、多数のピットなどを検出し、7月30日をもって調査を終了した。

東山は5月24日から南端部で遺構検出作業に着手した。東山南端部の尾根西側緩斜面では土坑・ピットが密集して検出され、その一部は平安時代の掘立柱建物跡の柱穴であることが分かった。SB6・7の中心部付近では焼土が検出され、鉄滓や微細な鉄片も出土していたことから、同建物跡が平安時代の鍛冶関連遺構であると判断されたため、8月31日から9月2日にたたら研究会委員 穴澤義功氏に現地指導および鍛冶関連遺物の鑑定を依頼した。その結果、SB6・7の焼土はどちらも小鍛冶段階の鍛冶炉であること、また鍛冶関連遺物についても製錬および精錬・鍛錬鍛冶という各段階に排出される鉄滓が認められることなどが明らかとなった。古代の鍛冶工房の発見は鳥取県内では陰田遺跡群などに次ぐ希少例であり、9月18日に現地説明会を開催し、悪天候にも関わらず66名の参加者を得た。東山では竪穴住居（建物）跡9棟、掘立柱建物跡3棟、土坑60基、多数のピットなどを検出した。

谷部は7月14日から遺構検出に着手した。当初1面調査の予定であったが、調査地南端に設定したサブトレンチの掘り下げ結果から遺構面が2面存在することを確認した。各遺構面で検出された遺構はピットのみであるが、尾根上の鍛冶関連遺構から廃棄されたと思われる鉄滓や鉄床石といった鍛冶作業の残滓が出土し、鍛冶作業に関連した土地利用のあり方を知る上で貴重な資料を得た。

谷部および東山の遺構を完掘した後、10月22日に業者委託により航空写真撮影を行い、補足遺構実測、現場機材撤収を含め、現地での調査を10月28日にすべて終了した。（高尾）



写真1 現地説明会



写真2 作業を終えて

## 調査日誌（抄）

4月5日	調査前地形・基準点測量開始（業者委託） 調査前空撮（業者委託）	8月10日	SI4完掘、SI5・6検出
4月12日	重機による表土剥ぎ開始	8月31日	たたら研究会穴澤義功氏現地指導 SB6・7の鍛冶炉はどちらも小鍛冶段階の炉 であると判明
4月20日	調査開始	9月3日	SI6・7掘り下げ開始、SI8・9検出 SB6-SK51検出、SB6・7内にメッシュ を設定し土砂サンプル採取開始
4月23日	方眼測量・杭打設開始（業者委託） 西山遺構検出開始、SK1・3検出	9月9日	SB6-SK51から石錠出土
5月19日	西山遺構検出終了 北端からサブトレンチ設定、掘り下げ	9月10日	報道記者発表
5月21日	SI1検出	9月15日	谷部第1遺構面完掘
5月24日	東山遺構検出開始	9月18日	現地説明会開催（66名参加）
5月27日	SK26検出・掘り下げ SB1・2完掘	9月30日	台風21号により調査地進入路路面崩落 調査地養生のため作業中断
6月17日	SK3上層部炭化材取上げ	10月6日	作業再開、谷部掘り下げ・第2遺構面調査開始
7月14日	谷部遺構検出開始	10月15日	SI8・9完掘、谷部第2遺構面調査終了
7月16日	SB3～5・SB6柱穴完掘、SB7を確認 SS3から台石・鉄滓出土	10月21日	台風23号により進入路路面が再度崩落
7月20日	SB6鍛冶炉検出	10月22日	航空写真撮影（業者委託）
7月22日	SB7鍛冶炉およびSK52検出	10月28日	補足遺構実測・現場機材撤収完了 発掘調査終了
7月30日	SK3底面直上炭化材取上げ終了・完掘 西山調査終了	11月18日	調査後地形測量終了（業者委託）

### 第3節 調査体制

調査は、以下の体制で実施した。

#### ○調査主体

財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 有田 博充

事務局長 中村 登

埋蔵文化財センター

所 長 田中 弘道（兼・県埋蔵文化財センター所長）

次長（事務） 竹内 茂

次長（専門） 加藤 隆昭

調 査 課

課長（兼次長） 加藤 隆昭

企画調整班長 山根 雅美

文化財主事 大野 哲二、下江 健太

庶 務 課

課長（兼次長） 竹内 茂

主 幹 福田 高之

事務職員 大川 秋子、谷垣真寿美、山根 美代、小谷 有里

#### ○調査担当 東伯調査事務所

所 長 佐治 孝式

班 長 牧本 哲雄

文化財主事 家塚 英詞、小山 浩和（福留遺跡・湯坂遺跡担当）

君嶋 俊行（南原千軒遺跡担当）

高尾 浩司、小口英一郎（中道東山西山遺跡担当）

野口 良也、濱本 利幸（八幡遺跡・久蔵谷遺跡担当）

玉木 秀幸、浅田 康行（上伊勢第1遺跡・三保第1遺跡担当）

恩田 智則、小谷 郁夫（化粧川遺跡・中道東山西山遺跡担当）

調 査 員 西川 雄大（南原千軒遺跡担当）

岩井 美枝、福井 流星（中道東山西山遺跡担当）

前島 ちか（上伊勢第1遺跡・三保第1遺跡担当）

阪上志緒里（八幡遺跡・久蔵谷遺跡担当）

調査補助員 野 浩一、山根 雅美、吉田由香里、山根 航、石水 健一

事務補助員 真山 葉子

#### ○調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課

#### ○調査協力 琴浦町教育委員会